

CONUT 変法を用いた外科的大動脈弁置換術の周術期栄養評価に関する検討

1. 研究の対象

対象：2014/1/1から2023/12/31までに待機的に外科的大動脈弁置換術が施行された病者さま

除外：研究への参加同意が得られなかった病者さま、透析病者さま、感染性心内膜炎の病者さまなど

2. 研究目的・方法

a) 目的

周術期(手術の前後)に低栄養が併発すると傷の治癒遅延や肺炎などの術後合併症の発現率が上昇し、病者さまの予後に影響を与えることが先行研究により報告されています。つまりは栄養状態の維持は病者さまがより安全に手術を受けられるために非常に重要なものとなります。

そこで、当院では周術期に病者さまが低栄養をきたさぬよう、多職種で様々な介入を行っています。しかし、これらの介入は、各病者さまの栄養状態を評価したのちにおこないますが、その方法は幾多も知られており、心臓手術を受けられる病者さまにとってどの方法がよりよいのかははっきりとわかっていません。その結果、正確な栄養状態の判断に迷うことも度々経験します。

そこで本研究では、CONUT 変法という2016年に報告された比較的新しい栄養評価手法を用いて、予後との関連及び、従来の他の栄養評価方法と比較しつつ、その有益性を検討することを目的としています。

〈CONUT 変法〉血液検査から得られたアルブミン値、リンパ球数、ヘモグロビン値から栄養評価を行う方法

b) 方法

①退院時の栄養状態を CONUT 変法などの栄養評価手法を用いて評価

②-1 各種評価手法と CONUT 変法で得られた栄養状態の相関性を検討

②-2 CONUT 変法で求められた栄養状態と予後との関連性を検討

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録より血液検査・心臓エコー・身体機能・認知機能検査の結果などから情報を収集します。

4. 研究組織

心臓病センター榊原病院(外部への情報提供はありません)

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて病者さまもしくは病者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先まで2025年8月31日までにお申出ください。その場合でもその後の診療など病院サービスについて病者さまに不利益が生じることはありません。

[照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先]

心臓病センター榊原病院

住所：岡山市北区中井町2-5-1/電話：086-225-7111

担当・研究責任者：奥村 佳史(薬剤部)